



グリーン・レポート 2004  
(環境安全報告書)  
Environmental Report 2004

**KANBO PRAS**

We are aiming at the company  
which is kind to the nature  
and the environment.





## トップメッセージ(我が社の環境対応)

当社は、環境問題への取組みを経営の最重要課題と位置付け、「環境のカンボウ」を目指して開発・生産・廃棄等に関するすべての段階での環境に配慮した「物づくり」に取り組んでおります。主な取組みについては次の通りです。

### <現状の取組み>

- ①非塩ビ樹脂使用製品への切り替えの推進
- ②生分解性樹脂使用製品の開発
- ③多缶ボイラーの導入による省エネの実現
- ④自家発電装置の導入による省エネの実現
- ⑤顔料の脱鉛化
- ⑥有害化学物質の削減・代替化
- ⑦産業廃棄物の削減と適正処理管理の徹底
- ⑧グリーン購入・調達、グリーン物流の拡大

### <今後の課題>

- ①リサイクルによる資源の有効利用
- ②LCA(ライフサイクルアセスメント)の導入
- ③第三者による環境監査の導入



この報告書は環境安全報告書として皆様にご報告すると共に当社のホームページにも掲載することにより情報を公開して、皆様方お一人お一人の忌憚のないご意見・ご提案をお伺いする場として発行し、今後の「環境経営」の貴重な情報として役立てて参る所存であります。

2004年11月  
カンボウプラス株式会社  
取締役社長  
柏田 民夫

## 特集 対談

### 環境行政の展開と当社の取り組み

当社は、操業以来遵守してまいりました工場所在地であります福井県鯖江市との公害防止協定書を2003年7月に環境保全協定書にステップアップしました。

今世紀に入り「公害防止」から「環境保全」時代へと環境に対する意識が大きくシフトするなかで、当事者である当社の取り組みがどの程度であるか把握することが重要です。

今回、福井県鯖江市の環境課・環境政策室よりお二人をお招きして、環境行政の展開と当社の取り組みについて対談しました。



<福井県鯖江市>

北陸地域でいち早くISO14001の認証を取得し、

「安全で健康的な生活環境の確保」

「快適な水と緑の都市環境の創造」

「健全で豊かな自然環境の保全」

「持続可能な地球環境の保全」

「市民参加による環境への配慮」

「総合的な環境教育の推進」

を基本として環境に配慮した施策を実行されています。

また、市内のISO14001の認証を取得した事業所・団体や認証取得を目指す事業所・団体を中心に

「鯖江市環境ISOネットワーク」

を設立され地球環境保全活動、事業所・団体相互の情報の交換・提供および利害関係者への各種情報の提供をされています。

#### 対談者



福田 末隆 氏

福井県鯖江市  
環境課 課長



加藤 泰雄 氏

福井県鯖江市  
環境政策室 室長



山上 透

当社取締役福井工場長



奥山 浩二

当社福井工場設備課長

(以下、敬称略)

- 奥山 本日はお忙しいところご来場下さりまして有難うございます。  
さっそくですが、ISO14001を行政としていち早く認証取得された鯖江市の行政としての公害・環境問題への取り組みをお教え下さい。
- 福田 私が環境課に赴任した昭和45年は公害問題が最大の関心事でした。  
平成になってからは地球環境問題に関心が移り始め、  
平成9年に「鯖江市環境基本条例」を、  
平成12年には「環境基本条例に基づく環境基本計画書」を  
学識経験者や市民を含めた推進団体に策定しました。  
主な活動では、  
一般市民向けには本格的なゴミ分別収集を平成4年から始め、  
事業場向けにISO14001取得ネットワークづくりを開始しました。  
お蔭様でゴミ分別収集は県内でも有数の成果を上げ、県外からも視察に見えられる程です。  
鯖江市では環境課が窓口となって住民からの苦情等を受け付けていますが、公害源対策の整備が進み、今では地球規模の環境対策が主なものとなっています。  
苦情内容も多くが  
「感覚公害」  
と呼ばれるもので、水の色とか騒音・振動とか臭気とかで、大気関係では住民には工場煙突から排出されている白煙が水蒸気であると説明しています。
- 山上 私どもは  
「作業環境の改善」  
「周辺地域住民への環境配慮」  
「産業廃棄物削減」など  
の取り組みを行っています。  
しかしながら周辺地域住民の方々からの悪臭による苦情があり、環境課の方にも立会いただきました。  
その際は大変ご迷惑をおかけしました。  
臭気対策については構想がまとまりつつあり、来年度からは導入に向けての具体的取り組みに入る予定です。
- 奥山 ところで今年新設された環境政策室では、どのようなお仕事をされておられるのでしょうか。
- 加藤 市役所内の各課を横断的にプロジェクトを推進する役割で助役と課長との間に特命監というポストがあり、環境に配慮した施策を直接担当しています。  
その1つが  
「コミュニティバス」です。  
以前は福祉バスとして走らせていましたが、呼称を変えて現在4台が市内を走っています。  
老人の方や自動車免許の無い方の足代わり等として活躍しています。  
今後は生活路線を拡充して利用者を増やす計画をしています。  
また、「ノーマイカーデー」の日にはコミュニティバスを利用して頂くことで、  
市民の方々の環境への意識を高めていきたいと考えています。  
そのためには最寄りの駅へのアクセスを良くするなどの利便性の向上を図っていきますので是非ともご協力下さい。  
もう1つは  
「環境教育を普及させること」です。  
既に、保育所や幼稚園、小・中学校での取り組みや事業場単位での環境研修の機会を提供しています。  
来年4月には  
「環境教育支援センター(仮称)」がオープンして、  
環境情報の発信基地としての役割を果たしていきますので是非ともご活用下さい。  
また、新エネルギービジョンとしてバイオマスの利用を進めています。  
既に環境衛生センターでは嫌気性消化によるメタンガス化にて消化槽加温ボイラー燃料として利用していて、  
今後、車用の燃料として使用出来ないか検討しています。  
コミュニティバスの燃料に利用出来れば「一石三鳥」と言うことになりますが、

加藤 現在、メタンガス発生量の増大や精製化(ガス濃度アップ)、貯蓄化(タンク、ポンプ等)のための投資効果が上がるかどうか調整検討中です。

福田 メタンガス発生量の増大策としては現在の下水処理場汚泥だけではなく、家庭から出される生ゴミや食品工場から出される廃棄物等にも着目しています。回収されるゴミの3~4割が生ゴミですので、その有機性を選定分別すればメタンガス発生量は確実に増えていきます。将来、メタンガスを天然ガスとして精製することが出来ないかと考えています。

山上 鯖江市での取り組みが、このように進んでいるとは住民でありながら知りませんでした。私どもにおいても産業廃棄物が発生していて、有料にて引き取りをお願いしています。ところが埋立地が満杯となり、これからどう処理するか大きな課題です。まずは、

発生する廃棄物が1%でも少なくなるよう努力していきます。  
発生したものについては、  
「高炉還元剤として使用できないか、」  
「非塩ビ樹脂のものはセメントの原燃材として使用できないか、」  
等を検討し、埋め立てゼロ(ゼロ・エミッション)を目指して出来るところから取り組んでいます。



#### ——『『ゼロ・エミッション』は共通の課題』——

福田 廃棄物のリサイクルには  
「マテリアルリサイクル」と  
「サーマルリサイクル」と  
「有価物回収」等  
の方法があり、大半が「マテリアルリサイクル」を採用されています。  
市内でも「サーマルリサイクル」されているところもあります。  
他の市町村ではペットボトルを回収梱包して高炉還元剤として神戸製鋼所へ送付されているところもあります。  
廃棄物は最終的には焼却してセメント固化し埋め立てられますので、それらを有価物として骨材とか路面材としての展開をしない限り「ゼロ・エミッション」は難しいと思います。  
市役所内でも出来るところから取り組んでいます。

- 山上 私どもから発生する糸の廃材を、  
或るカーペットメーカーで再バッキング材料として使用して頂いたことがあります。  
また、  
非塩ビ樹脂だけ回収してパレット化して引き取ったり、  
ケースや紙巻等を粉碎して固形燃料に出来ないものかと  
色々取り組んでいるところです。
- 福田 パレット化のように商品で引き取らないとなかなかサイクルは進展しないようです。  
あと、市民の意識改革も必要です。  
近頃は、再生トイレトーパーを市民が購入するようになりましたが、  
当初はバージン紙の方が見立ても綺麗だし値段も安かった。  
価格が同じ位なると「再生紙」も市民権を得たようです。  
「少し位高くても環境に配慮した商品を優先的に購入(グリーン購入)して頂くこと」  
が大切だと思います。

——「重要となる『グリーン購入』と環境教育」——

- 山上 今後、私どもも  
「クリーンな排ガス対策」とか  
「環境教育」とか  
「従業員の意識向上」  
を図って行かなければなりません。  
毎年7月の安全週間に併せて安全講話を開催していますが、  
事業場向けの環境教育についてアドバイス等をお願い致します。
- 福田 鯖江市では、毎年1回環境セミナーを開催しています。  
事業場従業員の方への環境教育には  
「鯖江市環境アドバイザー制度」がありますので、  
そのなかからテーマ別にご依頼いただければ結構です。  
ご家庭の方へは  
「パンフレット配布」や  
「モデル町内会づくり」等、  
環境に対する関心づくりのきっかけとなるよう努力しています。  
小・中学校や公民館等での環境教育は行われていますが、  
事業場からの依頼は今の所ございません。
- 奥山 最後に、私どもに対する行政側からの要望等がございましたらお願いします。
- 福田 ISO14001取得されたのが市内では2番目ですが、  
今後とも先発会社として利害関係者へ宣伝して下さるようお願い致します。  
コミュニティバスを通勤の足として発展させるためにも、  
コースや時間帯等をISOの一貫としてご検討下さい。  
環境対策や環境教育等すぐには評価が出ないものですが  
長期のスパンで取り組んで行って頂きたいと思います。
- 山上 ご指摘の資材等の購入先へのISO14001取得の宣伝不足はあったようですし、  
環境対策等の評価はすぐに現れにくいものも多々あるようですが、  
出来るところから継続して取り組み、  
「環境のカンボウ」の社会的責任を果たして行くことが  
重要であると再確認いたしました。  
本日は、長時間対談いただき有難うございました。

## 1. 環境安全基本方針

当社は、地球環境と自然保全に対応し地域社会と共生して持続可能な循環型社会を構築するため、これまでのPL(製品安全)宣言を環境対策と統合し、21世紀に相応した「環境安全宣言」としました。

### 環境安全宣言

カンボウプラスは、21世紀が循環型社会となり持続可能な発展を続けるため、地球環境と自然保全のために資源保護や環境負荷の低減に努め、環境に優しい製法を確保し、人の健康と物の安全を損なわない製品を提供するとともに、情報開示によりコミュニケーションを高めてグリーンカンパニーとなることを宣言する。

(2002. 6. 20改訂)

#### 1) 地球環境行動指針

##### 基本方針

カンボウプラスは、地球環境と自然保全に努め、より安全な製品を提供し続けるために「環境のカンボウ」を目指します。

地球環境、地域社会と調和した事業活動を通じて社会的責任を果たすために、次の活動を行います。

- ① 環境と安全を最優先課題として事業活動を行う。
- ② 持続可能な地球環境改善活動を行う。
- ③ 地球環境と人の健康と安全に貢献する技術・商品の開発を行う。

#### 2) 環境保全に関する課題の推進と中期計画化

当面は、緊急の課題について全社的にその実態を把握し、中期(2005年)の環境安全目標に基づき改善計画を立て具体的に推進して参ります。

##### (1) 環境負荷低減の努力

- ① 有害化学物質の環境への排出量削減
- ② 省エネルギーの推進によるCO<sub>2</sub>排出量の低減
- ③ ゼロ・エミッションの実現
- ④ グリーン購入・調達、グリーン物流の拡大
- ⑤ 当社製品の環境負荷の定量化(LCA)
- ⑥ 環境に優しい製品(エコプロダクツ)の開発と提供

##### (2) 情報開示とコミュニケーションの推進

- ① グリーレポートの充実と活用
- ② 環境会計の充実
- ③ 地域社会とのリスクとコミュニケーションの推進



## 2. 活動のまとめ(環境安全目標と2003年度達成状況)

2001年、緊急な環境安全重要テーマについて中期目標(2005年)を設定しました。2003年度の達成状況を自己評価してまとめました。

重点テーマ	目標(2005年)	達成状況(2003年)	自己評価
エコプロダクツの推進	1)環境配慮の加工技術の開発と確立 2)環境保全対策の推進 3)環境配慮の製品提供	①非塩ビ商品加工アップ ②顔料の脱鉛化を進める ③表面処理剤の水系化 ④排ガス・ミスト対策 ⑤テント等の臭気対策 ⑥RRシリーズの拡販 ⑦生分解性製品の開発	○ ◎ △ △ ○ ○ ◎
省資源・省エネルギーとCO <sub>2</sub> の排出量の低減	1)燃料10%削減 2)電力10%削減 3)用水10%削減 4)CO <sub>2</sub> 原単位10%削減	①多缶ボイラーの導入 ②インバータの導入 ③冷却水の再使用検討 ④C重油からA重油に ⑤物流のグリーン化	◎ ◎ △ ◎ ×
廃棄物の3Rとゼロ・エミッションの推進	1)廃棄物を10%削減 2)3Rとゼロ・エミッションの推進 3)レスペーパーの推進	① 溶剤廃液の回収使用 ② フェンツの有効利用 ③ 包装資材の削減 ④用紙購入量を10%削減	○ ○ △ △
化学物質等の管理と削減、情報提供	1)PRTR法の遵守と報告 2)MSDS、含有調査の情報提供 3)購入溶剤の削減	①PRTRの定期報告 ②MSDS作成と含有調査の提供 ③削減と代替の開発	◎ ◎ ○
グリーン購入調達の推進	1)事務用品等のグリーン購入比率のアップ 2)原材料・資材関係のグリーン調達の導入実施 3)化学物質の分類(自主基準)と表示削減推進	① 目標設定と達成 ②ガイドラインに基づく導入実施 ③自主基準物質の削減と実施	◎ × △
コミュニケーションの高揚と充実	1)グリーンレポートの定期発行と内容の充実 2)情報公開・開示による環境教育と社内外・地域コミュニケーション	① GR関係データ等の収集体制整備と定期発行 ② HP、ネットワークの整備と活用 ③社内教育等の計画実施	◎ ◎ △
環境管理の整備とシステムの充実	1)ISO14001更新 2)グループ全体に普及 3)マネジメントシステム化	① 認証更新の定期審査 ② 準用と情報共有化 ③ PDCA管理の実施	◎ △ △
環境会計の活用	1)環境予算の確保と効果アップ 2)環境会計の活用	① 予算化と適正効果の推進 ②会計の経営効果へ活用	△ ○

\* 評価:◎-目標達成、○-進行中、△-遅れ気味、×-未着手

\* 廃棄物の3R:REDUCE・発生抑制、REUSE・再使用、RECYCLE・再資源化

### 3. 環境保全活動の歩み

21世紀の企業活動は、地球環境や地域社会との持続可能な関係づくりが必要となり、循環型基本法の公布やグリーン購入法の施行等により廃棄物のリサイクル化が義務付けられ、さらには生産者の拡大生産者責任(EPR)は使用後の製品にまで及ぶようになりました。

当社は、工場所在地であります福井県鯖江市との取り組みとして環境会計の導入と環境安全報告書の公表を行い、2003年7月には「公害防止協定書」を廃止し「環境保全協定書」を締結しました。2004年4月には、従来の「製品安全(PL)委員会」を環境経営システムとして発展させて「環境安全管理(EPL)委員会」と改称し、マネジメントシステムとして運用することとなっています。

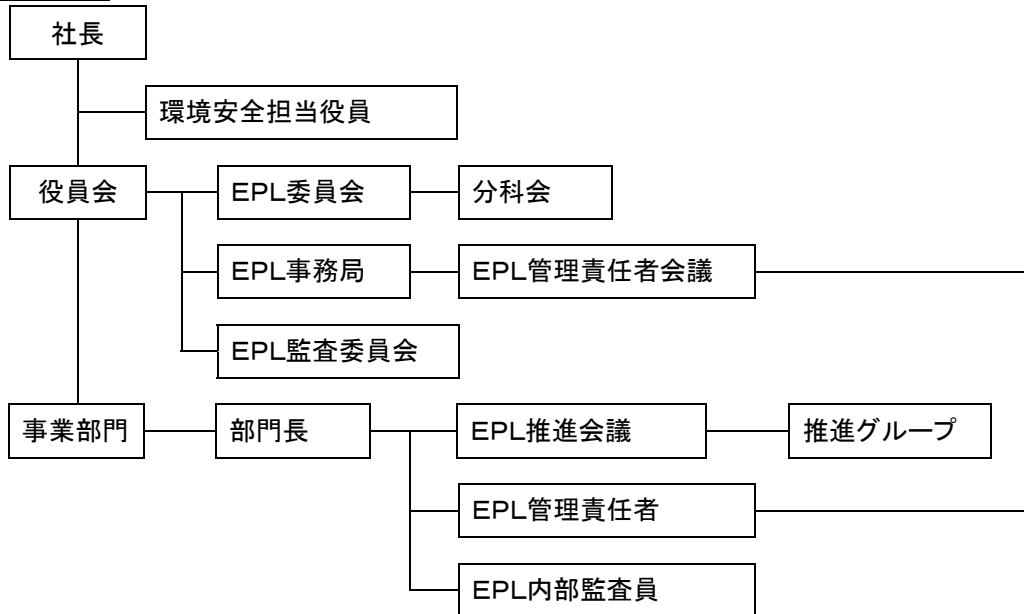
今後も、より多くのお客様に情報開示を進めると共に環境コミュニケーションを高め、エコプロダクツの推進とエコ商品の開発を重点的に取り組んで参ります。

カンボウの動き		社会の主な動き	
1973.	7 本社に環境管理部新設される	1967	公害対策基本法の制定
1974.	7 内規「環境管理規定」制定、施行	1971	環境庁設置
	10 「環境管理のしおり」(初版)発行、配布		
1995.	5 PLマニュアル、PLスローガン制定、施行	1993	環境基本法制定
1996.	6 福井工場ISO 9001認証取得	1997	COP3京都会議
1998.	6 福井工場 環境方針 制定		容器包装リサイクル法施行
	12 福井工場ISO14001認証取得		
1999.	6 鯖江市MG システムデザイン会議就任	1999	PRTR法公布
2000.	4 鯖江市環境ISOネットワーク会長就任 「環境のカンボウ」企業イメージを謳う	2000	循環型社会形成促進基本法制定
2001.	2 PL方針、PL指針、PL宣言制定、施行	2001	PRTR法施行
	3 福井工場、環境会計導入		家電リサイクル法施行
	4 福井工場、環境報告書公表		グリーン購入法施行
2002.	6 「環境安全基本方針」「環境安全宣言」施行	2002	土壌汚染対策法制定
	7 「環境安全目標」制定、施行		建設リサイクル法施行
	8 ISO 9001登録改定(2000版)		京都議定書、日本批准
	10 「グリーンレポート」2002発行、配布		エネルギー基本法公布
	12 グリーン購入の導入		
2003.	1 福井工場ISO14001定期審査	2003	土壌汚染対策法施行
	4 グリーン調達ガイドライン制定		循環型社会形成促進基本計画策定
	7 鯖江市と環境保全協定書締結		環境教育推進法制定
	10 「グリーンレポート」2003発行		
2004.	4 EPL委員会(マネジメントシステム)に改称		

#### 4. 環境安全管理体制

当社の環境安全管理方針は、役員会の下に設置された環境安全担当役員を長とする統括審議機関「環境安全管理(EPL)委員会」が全社方針目標等を決定し、事業部門毎に施策を具体化して、実行しております。各事業部門には部門長を推進委員長とする推進会議を始め、管理責任者や内部監査員を配置して、それぞれの事業部門に適した方針・計画等に基づいた環境安全管理マネジメントシステムの構築、計画(P)・実施(D)・維持(C)・改善(A)を行い、環境安全管理活動を推進しています。

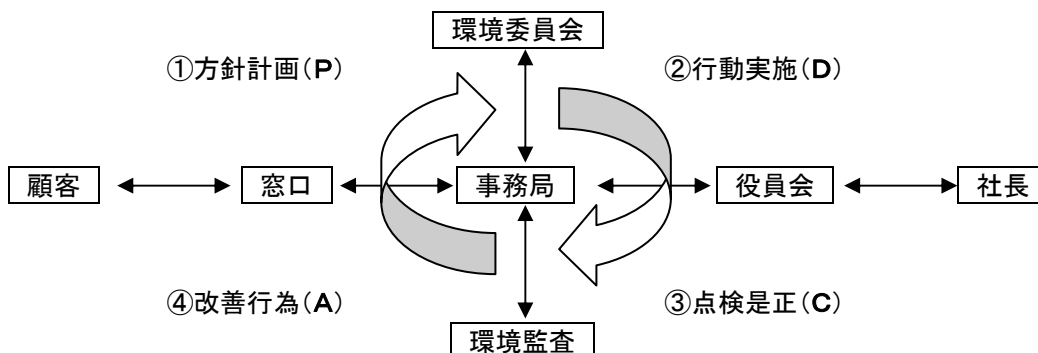
##### 社内組織図



##### ・環境安全ラインとサイクル

継続的、計画的に環境安全管理活動に取り組み、持続可能な社会を構築し社会貢献していくために、自主的にマネジメントシステムを準用し「環境経営」として推進しています。年度末に点検手順書等内規に基づく監査委員会による「内部監査」を実施し、その報告書を作成するとともに見直し事項等について指示を行い、次期の方針・計画、目標等の改定とレベルアップに反映させています。

お客様から寄せられた環境安全管理に関する苦情や相談等については、それぞれの事業部門の窓口で受け、迅速かつ的確に対処しています。



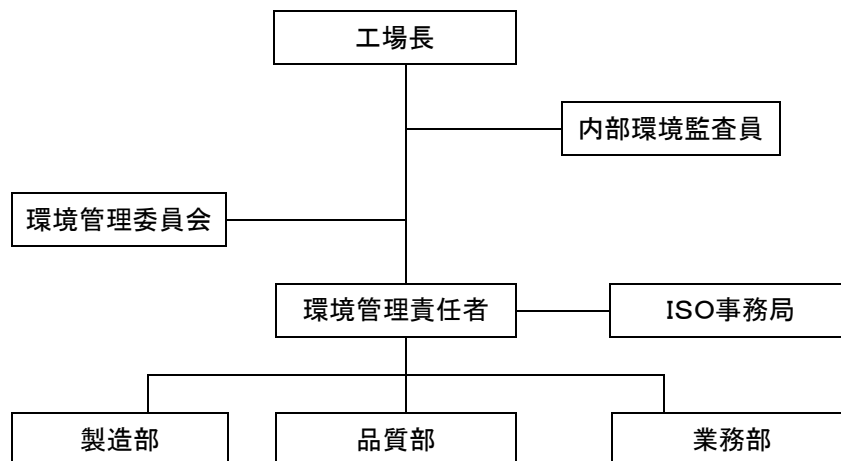
\* マネジメントシステムとは、①計画的にP(Plan)⇒②実行D(Do)し⇒③是正C(Check)しながら④改善A(Action)行為する仕組み(サイクル)のことを言います。

## 5. 環境保全推進システム

### ISO14001対応

品質管理対策として国際標準化機構(ISO)9001(品質マネジメントシステム)の認証を1996年6月取得して製品安全(PL)に寄与するとともに、ISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を1998年12月に取得しました。現在では、環境目標を設定し環境保全対策(環境負荷物質の軽減等)を推進しています。また、2003年1月には定期審査を終了しています。

#### 1) 福井工場の環境管理組織(環境マネジメントシステム)



#### 2) 福井工場の環境方針(1998年6月10日制定)

##### ・環境基本理念

当社は、地球環境の保全が人類共通の最終重要課題の一つである事を認識し、企業活動のあらゆる面で、地球環境の保全に配慮して行動します。

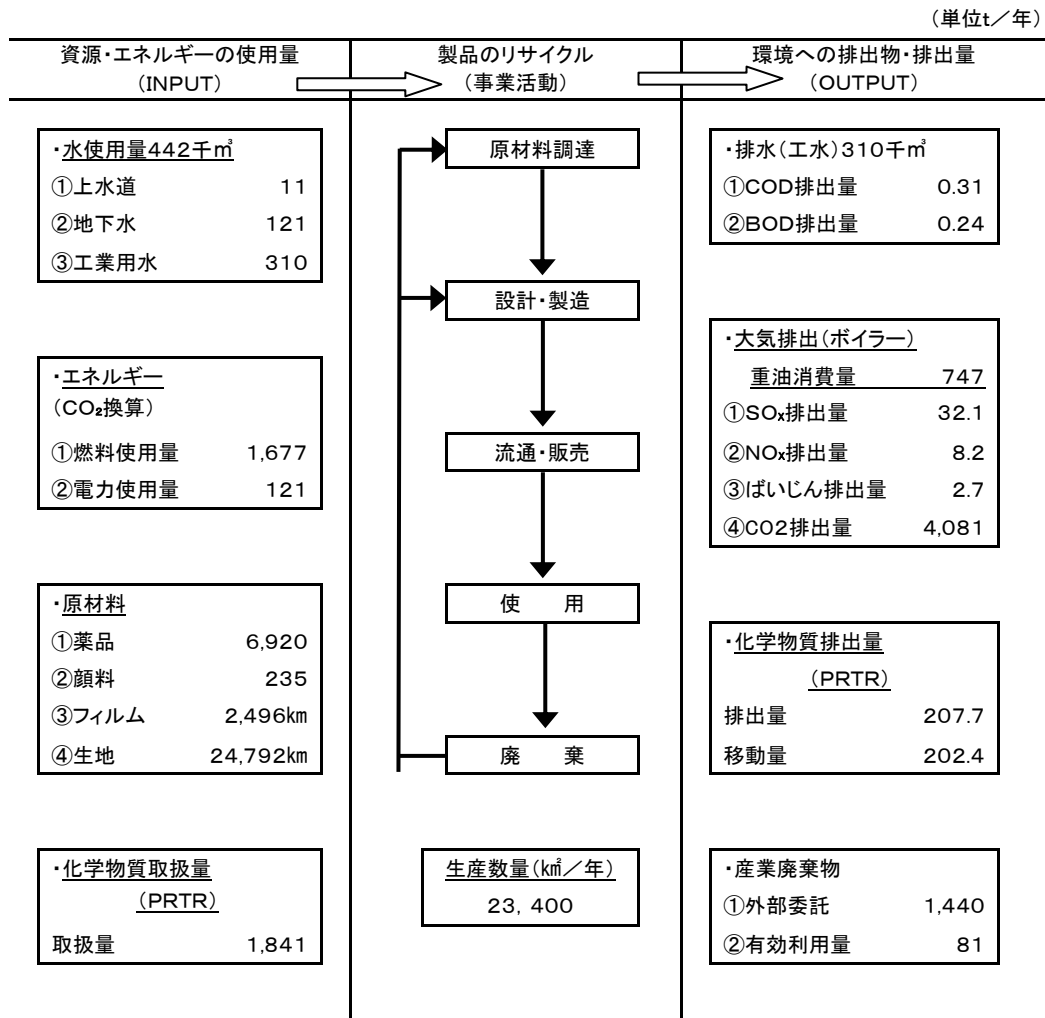
##### ・環境基本方針

当社は、テント、ターポリン、帆布及びその他の樹脂加工繊維製品の生産を中心とした企業活動において、環境負荷の低減を目指し、以下の方針に則って行動する。

1.	当社は地域社会と協調し、対話を大切に環境管理活動を通じて社会に貢献する。
2.	当社の事業活動において、省資源、廃棄物の削減、環境負荷物質の管理を行い、汚染の予防を含めた、より良い環境の維持、向上に取り組む。
3.	定期的な内部環境監査の実施により、環境管理活動の実施状況と結果を確認し、環境マネジメントシステムの継続的な改善に努める。
4.	当社の事業活動に関係する環境関連法規制及びその他の要求事項を遵守する。
5.	当社の事業活動に係わる環境側面について環境目的及び目標を設定する。また、環境目的及び目標は環境方針とともに、年1回見直しを行う。
6.	環境方針は環境方針書として文書化し、環境マネジメントシステムにより実行し維持する。
7.	環境方針は全従業員が周知、認識し方針に則って行動するように、全従業員に対する教育、訓練を実施する。

## 6. 環境負荷の全体像

樹脂加工メーカーとして設立以来、公害防止対策に努め、環境・製品安全を最優先課題として取り組んでいます。持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全を進めるために、事業活動における購入消費している資源、エネルギーの効率化とグリーン購入等の推進や排出している廃棄物、排ガス、排水等の環境負荷の質量について実態を正確に把握し、その負荷に対する軽減策とグリーン化を順次講じて参ります。



### ブレイクタイム

#### Newオレフィンターポリン

これまでに環境配慮型商品として、アップルスター・EVA25ターポリン、RRシリーズを上梓してきました。

当社はこの度、新たに「Newオレフィンターポリン」を開発・上梓しました。

この商品は、以下を特徴としております。

- ① 軽量です。(塩化ビニール製と比較して約2/3程度)
- ② 燃焼時の塩化水素ガスが発生しません。
- ③ 引裂強力が高いです。(当社 EVA25比で約3倍)

以上の特徴をもとに、物流・工場資材としてパレットカバーなどにご使用頂き、ご好評頂いております。

また、大型カバー材を縫製する場合には「軽量」の特徴が顕著に活かされ、従来よりも輸送コストが節約できるとの評価も頂きました。

現在、用途拡張を図るべく、様々な実装試験を進めております。

## 7. 環境保全への取り組み

2003年7月に福井県鯖江市と「環境保全協定」を締結しました。現在の環境関連法規制基準行動基準を遵守し、継続的な改善と効果的処理に取り組み、環境負荷の削減と環境保全に努めて参ります。

### 1) 大気汚染関係

施設名	項目	規制値・基準値	実測値		
①水管ボイラー (2004.3.3測定)	SO <sub>x</sub>	20Nm <sup>3</sup> /h	3.5Nm <sup>3</sup> /h		
	NO <sub>x</sub>	250ppm	100ppm		
	ばいじん	0.3g/Nm <sup>3</sup>	0.051g/Nm <sup>3</sup>		
②ガス・粉じん (2003.12.4測定)			測定地点		
			I	II	III
	キシレン	6.0mg/m <sup>3</sup>	<0.01	<0.01	<0.01
	トルエン	5.0mg/m <sup>3</sup>	0.05	0.07	0.07
	MEK	10.0mg/m <sup>3</sup>	<0.01	<0.01	<0.01
	ジオチルフタレート	0.2mg/m <sup>3</sup>	<0.02	<0.02	<0.02
	ジブチルフタレート	0.2mg/m <sup>3</sup>	<0.02	<0.02	<0.02
	塩化水素	0.2mg/m <sup>3</sup>	<0.01	<0.01	<0.01

測定地点 I.工場西 II.工場南 III.工場東

### 2) 水質汚濁関係

排水の種類には①生活関連②工場排水③冷却水・雨水があり、排水の大半が冷却水で河川に、生活排水はそのまま下水道に、工場排水は処理されて下水道に放流されています。

施設名	項目	基準値	実測値		
①排水口 (2003.11.12測定)			測定地点		
			I	II	III
	BOD	20mg/L	1.0	0.6	0.8
	COD	20mg/L	1.7	0.6	1.1
	SS浮遊物質量	70mg/L	<1	<1	<1
	N-ヘキサン	5mg/L	<0.5	<0.5	<0.5

測定地点 I.工場西北 II.工場西南 III.工場東

### 3) 騒音・振動その他

騒音・振動・悪臭に対する取り組みについては、工場境界線の定められた地点時間帯で定期的に測定、報告を行い、管轄行政、地域住民の皆様にはご理解いただけるように対策を講じています。2003年度は隣接地域からの環境苦情等はありませんでした。

## 8. 化学物質対策

当社は樹脂加工メーカーとしてさまざまな化学物質を配合材料として使用しています。化学物質対策として①有害化学物質の代替化や削減等と②原材料調達のグリーン化に取り組んでいます。安定剤・撥水剤の環境ホルモン対策、顔料の脱鉛化やトナーの脱6価クロム化等は進みました。

### 1) PRTR対策

2000年度からPRTR法(化学物質管理促進法)に基づく対象物質(第1種指定化学物質354物質)で該当する9物質の取扱量と排出量・移動量について調査を行っています。2003年度の取扱量と排出量・移動量は次のとおりです。

①取扱量: 1,840.8t/年

(t/年)

化学物質名	①取扱量	②排出量	③移動量
アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	121.3	2.7	11.0
アンチモン及びその化合物(難燃剤)	134.4	0.0	12.0
カドミウム及びその化合物(安定剤)	0.0	0.0	0.0
キシレン(溶剤)	153.7	37.0	63.0
6価クロム化合物(顔料)	1.1	0.0	0.09
N、N-ジメチルホルムアミド(剤)	21.7	23.0	0.47
トルエン(溶剤)	125.7	120.0	2.4
鉛及びその化合物(顔料)	5.2	0.0	0.45
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	1,277.7	25.0	110.0

②排出量: 207.7t/年

③移動量: 202.41t/年

### 2) MSDS, 含有物質調査対策

PRTR法では、対象化学物質を含有する製品を他の事業者へ譲渡・提供する際に、その化学物質の性状および取り扱いに関する情報(製品安全データシート、MSDS)を事前に提供することが義務づけられています。当社は、製品安全データシート(MSDS)の整備とシックハウスや揮発性有機化合物等の含有物質調査の情報開示・提供に努めて参ります。

### 3) 溶剤対策

新規溶剤の購入量の削減と代替技術の開発を進めていますが、購入量は増加傾向にあります。

○目標

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
使用量	100	98	96	93	90

○実績

(単位:t/年)

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
購入量	378 (100)	332 (88)	300 (79)	336 (89)	300 (100)	300 (100)	324 (108)

——ブレイクタイム——

不燃FFシート SIGNPRAS-FG

ご好評頂き販売しておりますFFシート(内照式看板用シート)に加えて、この度、新たに「不燃FFシート SIGNPRAS-FG」を上梓しました。

この商品は、以下を特徴としております。

- ① 国土交通省認定の不燃材料です。
- ② 防火地域の内照式看板、商業施設・地下街・駅構内のサイン等に使用できます。

以上の特徴をもとに、防火地域の看板、ビル内の装飾などにご使用頂き、ご好評頂いております。

さらに、お客様の社会的責任やコンプライアンス(法令順守)等への意識の高まりから、多くの引き合いを頂き、かつ使用して頂いております。

## 9. 廃棄物対策

### 1) 工場における取り組み

2001年度使用実績をベンチマークとする環境目標および年度削減目標の達成を目指し廃棄物の発生量を減らすとともに、再資源化の向上と適正処理の維持管理に取り組んでいます。

#### ○目標

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
生産量原単位比	100	98	96	93	90
(実績)		(99)	(102)		

#### ○発生量(有効利用量)

(単位:t/年)

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
①廃プラ	1,028(98)	959(95)	1,026(90)	929(52)	968(41)
②廃溶剤	412(8)	337(14)	385(33)	439(38)	423(40)
③燃えがら	—	4	6	7	1
④汚泥	—	—	3	—	—
⑤紙くず				36	47

発生量・1521(t/年) = 委託量(1440) + 有効利用量(81)
---------------------------------------

#### ・産業廃棄物の削減と適正処理管理

2001年度の最終処分量をベンチマークとして、2005年度の最終処分量を10ポイント削減することとしています。また、自社内で処理できない廃棄物については、委託が確実に処理がなされるように産業廃棄物管理票制度に基づき、適正処理管理しています。

### 2) オフィスにおける取り組み

2001年度使用実績をベンチマークとする環境目標および年度削減目標を設定し、レスペーパーを推進しています。

#### ○目標

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
使用量	100	98	96	93	90
(実績)		(107)	(109)		

#### ○使用量

(単位:千枚)

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
①コピー紙	653	605	554	597	617
②コンピューター用紙	90	54	58	58	48

### 3) ゼロ・エミッションの推進

1998年12月に環境マネジメントシステム規格ISO14001の認証取得を機に、廃棄物の3R(リデュース・発生抑制、リユース・再使用、リサイクル・再資源化)と包装資材の削減等に努めています。今後も、工場から発生する廃棄物が社外で資源化され埋め立て処分量をゼロにする「ゼロ・エミッション」を推進します。



## 11. グリーン購入の促進

2002年12月に「グリーン購入」の制定、導入を開始し、文具等の事務用品についてはグリーン購入を促進することとなりました。紙類・OA機器・文具類等については購入基準をクリアしています。2003年4月には「グリーン調達ガイドライン」を策定しました。グリーンパートナーづくりおよび物流のグリーン化への取り組みは遅れていますが、工場での新作業着には「エコマーク商品」が採用されました。グリーン購入基準・グリーン調達選定基準評価は次の通りです。

### 1) グリーン購入基準

- ①エコマーク、環境ラベルのついている商品を優先的に購入する
- ②エコ文具一覧表、カタログ等を参考に購入する
- ③環境保全活動に積極的な事業者により製造され、販売される製品を購入する

<分野別購入基準>

分野	購入品目	購入要件(基準)	評価
紙類	・コピー用紙	・古紙70%以上、白色度80%以下	◎
	・コンピューター用紙	・再生紙の利用	◎
	・名刺	・再生紙の利用	◎
	・印刷物	・再生紙の利用	◎
	・社内封筒	・再生紙の利用	◎
OA機器	・トナー	・再充填タイプカートリッジ再使用	◎
	・コピー機	・節電機能、部分リサイクル対応	◎
	・パソコン	・省エネ(プリンターも)	◎
文具類	・事務用品	・再生材料の利用	◎
照明	・蛍光灯	・エネルギー消費効率	◎
	・照明器具	・省エネ、インバータ化、ナトリウム灯	×
自動車	・低公害車	・排ガス	×
		・燃費	×
その他	・制服、作業服	・素材がPETボトル再生布を使用	◎
		・回収され、リサイクルされるもの	◎

### 2) グリーン調達選定基準

- ①取引先(購入先)選定基準
  - (イ) ISO14001の認証を取得済みである。または取得計画がある
  - (ロ) グリーン調達を実施している。または計画がある
  - (ハ) 未取得の場合は、以下の取り組みを満たしている(略)
- ②資材の選定基準(略) 詳しくは、「グリーン調達ガイドライン」をご覧ください。
- ③グリーン基準(自主基準)の策定と表示 <策定、導入実施予定>

### 3) 物流のグリーン化

取り組みが遅れていますが温暖化効果ガス対策の一環として策定、導入実施する予定です。

## 12. エコプロダクツの推進

樹脂加工メーカーとして高品質性、高機能性の付与とエコプロダクツを推進するために

- ①環境負荷低減の製造技術の開発
- ②環境保全対策
- ③環境配慮型商品の提供等

を最重要課題として取り組み、脱カドミ化や環境ホルモン対策、生分解性製品の開発等では着実に成果をあげております。

「環境のカンボウ」を創出するために4R (REJECT、REDUCE、REUSE、RECYCLE)をキーワードとし、地球温暖化防止対策および省エネ、省資源や汚染防止等と環境負荷の低減に貢献する環境配慮型商品(エコ商品)の開発提供を促進しています。

### 1) 4Rコンセプト

- ・REJECT: 法規制、健康への影響物質の不使用(無くそう)
- ・REDUCE: 環境負荷の低減(減らそう)
- ・REUSE: (再使用)
- ・RECYCLE: (再生使用)

### 2) 環境負荷低減のための製造技術開発


環境効果	テーマ	進捗状況	評価
省エネ 省資源	①省エネルギー	インバータコンプレッサの導入	◎
	②燃料転換(C重油からA重油に)	多缶ボイラーの導入	◎
汚染防止	①顔料の脱鉛化	進行中	◎
	②表面処理剤を溶剤から水系に変える	課題多く未解決	△
非塩ビ	①生分解性製品の商品	PPターポリン、カバン地	◎
	②ノンハロゲン加工の確立	メッシュ1類は完了	○
	③押出しラミネート機の活用	試作中	△
	④非塩ビ商品の加工比率アップ	数量20ポイントから30ポイントに	○

### 3) 環境保全対策

テーマ	進捗状況	評価
①排気可塑剤ミスト対策	試験中	○
②テント臭対策	水系で検討中	△

### 4) 自社制定環境マーク(ラベル)

環境負荷の少ない環境商品開発やサービス提供等により環境コミュニケーションを高めるため、ISOでは環境ラベルを3つのタイプに分類しています。タイプⅠは、第三者認証(ISO14024)したもので日本では「エコマーク」。タイプⅡは、自己宣言(ISO14021)で事業者自身が製品やサービスへの配慮を主張するもの。タイプⅢは環境情報表示(TR14025)するもので、自社制定した「カンボウ環境マーク」はタイプⅡに該当します。今回新たに「グリーン購入適合商品」を追加致しました。

環境マーク	商品分類	基準
	非塩ビ商品	非塩ビ化をクリアし、他の代替樹脂を使用していることを示す。自社制定マーク代替樹脂名は製品毎に表記する。
	リサイクル商品	再生樹脂(リサイクル)配合率50%以上をクリアしていることを示す自社制定マーク再生樹脂の配合率は製品毎に表記する
	生分解性商品	分解性樹脂配合率100%以上をクリアしていることを示す自社制定マーク樹脂名は製品毎に表記する。
	ノンハロゲン(ダイオキシン対策)商品	三酸化アンチモンや塩素等のハロゲン難燃剤を使用していないことを示す自社制定マーク
	PRTR(環境ホルモン、重金属)対策商品	環境ホルモン等(ダイオキシン類、有機スズ、ビスフェノールA、ノニルフェノール、フタル酸ジ・2・エチルヘキシル)及び重金属(鉛、カドミウムバリウム、6価クロム等有害重金属類)を含まないことを示す自社制定マーク
	VOC、シックハウス対策商品	シックハウスの原因物質である揮発性有機化合物(ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、木材保存剤、可塑剤、防蟻剤等)を含まないことを示す自社制定マーク
	グリーン購入適合商品	グリーン購入法に基づき、環境に配慮した素材を使用しグリーン購入に適合することを示す自社制定マーク

## 5) 高機能性付与商品の開発と提供

当社の永年培った軟質塩化ビニール樹脂加工製品・商品等は、お客様のニーズや用途等にマッチし、高品質(丈夫)で安心して、ご愛用いただいています。環境問題では、塩化ビニール樹脂加工製品が何かと取り沙汰されていますものの環境保全と環境負荷の低減や取り扱いの整備等を促進するとともに、工場では永年蓄積してきた製造技術と最新情報を現場技術に活かし、樹脂加工メーカーのオオソリテーターとしてそれぞれの用途に最適な高機能性を付与した商品開発と提供に今後とも努めてまいります。

### 13. 環境会計

1999年度から環境会計を導入し、環境活動に投入される費用の明確化と活動内容の対費用効果を評価して開示しています。2003年度は投資額33.4百万円、費用額99.1百万円となり、経済効果は生産増に伴う購入資材の増加により▲15.2百万円となりました。

#### 1. 環境保全費用

(単位、百万円)

項 目	投資額	費用額
1) 事業エリア内コスト		
① 公害防止コスト(法遵守、周辺地域への環境対策)	0.0	45.4
② 地球環境コスト(CO2 温暖化対策、省エネ活動)	33.4	7.2
③ 資源循環コスト(省資源、廃棄物管理活動)	0.0	41.4
2) 上・下流コスト(グリーン購入)	0.0	0.2
3) 管理活動コスト(EMS 関係、審査、教育、測定、人件費)	0.0	3.4
4) 研究開発コスト(環境配慮型製品、負荷低減の研究開発)	0.0	0.0
5) 社会活動コスト(自然保護、緑化、地域活動、広報、寄付)	0.0	0.0
6) 環境損傷コスト(賦課金、回復・修復費用)	0.0	1.5
合 計	33.4	99.1

#### 2. 環境保全効果

項 目		
1) 事業エリア内コスト		
① 熱エネルギー使用量	1.0%減↘	(6.1%増)
② 電気エネルギー使用量	3.3%増↗	(3.1%減)
③ コピー用紙使用量	7.1%増↗	(10.7%増)
④ コンピューター用紙使用量	0.0%	(10.7%増)
2) 上・下流コスト管理活動コスト		
① 難燃剤(アンチモン)使用量	60.0%増↗	(9.0%減)
② 安定剤(カドミウム)使用量	21.9%減↘	(10.0%減)
③ 顔料(鉛)使用量	95.2%減↘	(13.6%減)
④ 有機溶剤 使用量	4.1%増↗	(1.1%増)

#### 3. 経済効果

(単位、百万円)

項 目	金 額	(理 由)
① 省エネ(LPG, 重油)	▲ 1.9	(多缶ボイラー導入等)
省エネ(電力)	▲ 1.7	(EL機の導入等)
② 薬品関係(難燃剤、安定剤等)	▲ 15.2	(アンチモン購入増等)
③ 廃棄物(廃液、フェンツ)	▲ 0.3	
④ コピー用紙	▲ 0.3	

## 14. 内部監査とISO定期審査

### 1) 自主的な内部監査結果報告(2004年1月発行)

当社の内部監査は、自主的に制定した「環境安全管理マニュアル」に基づく社内監査規程に沿ってEPL監査委員会によるPDCAマネジメントシステム仕組みで運用しています。2003年度のテーマ別部門監査評価は次の通りです。

テーマ	部門	評 価			
		管理	製造	東京営業	大阪営業
①管理システム(全体)		3	4	3	4~5
②活動の具体化(部門別)		3	2~3	3~4	4
③テーマ別	1)アセスメント体制	—	4~5	3	4~5
	2)人と環境配慮対策	3	3~4	3~4	3
	3)書類等の整備等	4	5	4	5
	4)教育啓発(OJT)	2	3	2	2
	5)文書管理	4	3	4	4
	6)情報伝達	3	4	4	3
	7)ISOとの整合	—	5	—	—

<評価>5:目標達成4:8割以上達成3:5割以上達成2:3~4割達成1:1~2割達成 0:未着手—:該当せず

### 2) ISO定期審査(福井工場)

・ISO9001については、登録審査(1996年5月)以降、年1回の定期審査及び3年毎の更新審査、毎年4、10月にはマネジメントレビューを行っています。最近の定期審査結果は次の通りです。

回数	審査日	審査結果[件数]	評価
9回	2003年7月15~17日	メジャー 0、マイナー 3	◎
8回	2002年7月2~3日	メジャー 0、マイナー 3	◎

・ISO14001では、環境目標(2005年度)として廃棄物排出量等を2001年度の使用実績を100として10%削減(生産量原単位比)する計画を立てています。2003年度は4ポイントの減少となりました。

項目	2001年実績(100)	2003年度実績(96)	評価
1)廃棄物排出量	54.4	55.4 (109)	×
2)エネルギー消費量	352.9	353.9 (100)	×
3)溶剤新規購入量	20.1	17.1 (85)	○
4)環境負荷物質	6.7	7.9 (119)	×
5)レスペーパー(枚)	46,167	53,281 (115)	×

## 15. 環境コミュニケーションの推進

『多くのお客様に「当社の取り組み」についての情報を知っていただき、共に環境コミュニケーションを高めていくこと』が重要であると認識し、「環境安全教育」や「グリーンレポートの発行」や「インターネット、各種展示会会場などでの情報開示」を進めています。

### 環境安全教育

社内従業員の環境安全マインドの向上を図るため、全国的な週間行事の外に自主的、定期的なアンケート調査を始め研修会の開催や社内報、各種ニュース等の発行を通して啓発啓蒙を実施しています。

### アンケート結果

\* 設問1. あなたは当社の環境安全管理対策をどう評価されますか。

十分機能している(6) **機能している(45)** 機能していない(5) わからない(34)

\* 設問2. あなたは当社の環境安全宣言の内容をご存知ですか。

良く知っている(2) 知っている(32) **知らない(41)** わからない(34)

\* 設問3. あなたは当社のグリーンレポートの発行をどう評価されますか。

大いに評価している(11) 評価できる(27) 評価できない(5) **わからない(49)**

\* 設問4. あなたは当社の環境安全目標をご存知ですか。

良く知っている(4) 知っている(27) **知らない(48)** わからない(11)

\* 設問5. あなた自身はグリーン購入していますか。

いつも意識して購入している(6) **時々している(39)** していない(36) わからない(21)

### 安全衛生管理

2002年2月「安全管理特別指定事業所」の指定を受け、労災撲滅に向けて「安全衛生改善計画書」を作成し実行しました。労災事故の再発防止対策や改善計画等を実施した成果として2002年度は死傷災害等が発生しなかったものの2003年度は1件発生しました。

### 最近の労働災害の発生状況

	2003(H12)	2003(H13)	2003(H14)	2003(H15)
発生件数	1	2	0	1
休業日数	36	67	0	86

### グリーンレポート

2002年10月に初めて「グリーンレポート2002」(環境安全報告書)を発行し、環境安全宣言、環境安全方針や環境負荷低減に向けての目標(2005年度)を設定し、毎年レポートを発行し、HP(ホームページ)にもサイトを設け、多くのお客様にご覧いただきご理解いただけるよう情報の開示を進めています。また、巻末には、アンケート用紙を付けておりますのでよろしくご協力下さい。今後、電子メール等での皆様からのご意見ご質問や資料請求にお答え出来るよう体制の整備を強化してまいります。



自然と環境にやさしい企業をめざしています

## カンボウプラス株式会社

〒541-0059 大阪市中央区博労町一丁目6番9号

tel 06-6262-1277 fax 06-6262-9419

home page <http://www.fcc.co.jp/kanbopras/>

この報告書は再生紙を使用しています。

